

# SENBA Project

教育・研究

課外活動

地域交流

代表者：理工学研究科 2年 渡辺 康太

## 連携先

茨城大学 児童文化研究会  
黄門ローイングクラブ  
茨城大学ボート部

## 顧問教員

西野由希子（人文社会科学部・教授）

## 参加者

渡辺 康太（理工学研究科知能システム工学  
専攻 1年）  
長永 勇太（人文学部社会科学科 3年）  
佐藤 麻美（教育学部 養護教諭養成課程  
3年）

## プロジェクトの概要

茨城大学の学生で作られたSENBA Projectを中心に千波湖を利用したボート教室を開く。

遊びを通して協力して目標達成（船を漕ぐこと）することを学んでもらう。

また、スポーツイベントなどの体を動かした体験により、千波湖が地域の子供達にとって親しみ深いものとなり、地域の誇りとして再認識してもらおう。

期間：8月18～20

時間：10時～16時

場所：千波湖

## プロジェクトの成果報告

### ■結果

1日目

8月18日（金）

参加人数：40人

地域の学童が参加してくれた（15名程度）

当日千波公園に遊びに来ていた小学生が参加  
新聞社から取材を受ける



<https://mainichi.jp/articles/20170820/ddl/k08/040/048000c>

図1：千波湖ボート教室取材記事

2日目

8月18日（土）

参加人数：10人

お昼の時間帯から天候が荒れたため2時間程度で中止

3日目

8月18日（日）

参加人数80人

この日は天気も良く公園には多くの人遊びにいており、当日参加者がとても多かった。

同じウッドデッキエリア内で別の団体が学生向けイベントを実施しておりそちらの参加者がイベント終了時に参加してくれた。

初日の取材記事を読んで、参加するために来てくれた参加者がいた

後日水戸市環境課から連絡があり来年の千波湖ボート教室開催を共同で実施するお話をいただいた。

#### イベントの流れ



図 2、3 千波湖ボート教室本部

ボート教室はまず千波湖のウッドデッキにある本部で受け付けをして、ボートの漕ぎ方、安全面への注意喚起を行う。



図 4、5 マシンエルゴメータを漕ぐ参加者

参加者は本部においてあるマシンエルゴメータという陸上でボートの動きができるエクササイズマシンを実施することでボートの動きを理解して貰う。





図6, 7 発着場所から出発

一通りの説明と練習をしたのち発着地点より乗ってもらいざ出発。誘導やアナウンス等のサポートは主に児童文化研究会の方々に手伝ってもらった。



図7, 8, 9 ボートを漕ぐ参加者

今回のイベントのコースでは、千波湖の中央にある大噴水の周りを一周する。

また途中で黄門ローイングクラブの方が直接漕ぎ方を指導したりした。

100人以上の参加者がいたが怪我、事故は一切なかった。



図10 ウッドデッキからイベントを見る参加者



このイベントでは3日間で小学生をメインとして約130人が参加してくれた。

最終日は80人の参加者に満足度調査をし、イベントに対する満足度は5段階で4以上が100%。

またアンケートを取った全員が次回開始を希望した。

よって千波湖を利用した体験型イベントには一定の需要があることが分かった。

今後継続的に千波湖でボート教室を開くことは千波湖の活性化につながるといえる。